



お客さま向け資料

ブラジルの政策金利と足元の株式市場について

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利(SELIC)は10.75%で据え置き:

2010年10月20日(現地)、ブラジル中央銀行は定例金融政策委員会(COPOM)において、Selic(政策金利)を現行の年率10.75%で据え置きとすることを決定しました。

ブラジル経済は世界的な景気後退局面から早期に回復しており、ブラジル中央銀行が公表する市場予想では、2010年通年のGDP成長率は7.55%と予想されるなど(出所:ブラジル中央銀行、2010年10月15日現在)、過去20年間で最高の成長率を達成するとみられています。

このように景気の拡大により輸入が増加していること、所得水準の上昇、鉄鉱石価格や食品価格の値上がりなどを背景としたインフレ圧力の高まりから、ブラジル中央銀行は今年4月以降、3回にわたってSelicを引き上げてきました。

しかしながら、中銀がインフレ目標のターゲットとしているIPCA(拡大消費者物価指数)が、9月は前年同月比+4.70%と中銀のインフレ目標圏内(目標中央値4.5%±2.0%)にとどまっていることに加え、世界景気の鈍化傾向が見られることや、9月のブラジル政府関連登録雇用創出件数が246,875件と前月を下回り、ブラジル経済が持続可能な成長水準へ減速するなど、足元のインフレ圧力は低下していることから、金融当局は政策金利の据え置きを決定したと考えられます。

また、ブラジル政府は18日に、海外投資家による債券購入やデリバティブ取引にかかる為替取引に課している金融取引税(IOF税)の税率を引き上げました。これは、急速に進むレアル高の抑制を目的としていると考えられますが、ブラジル政府がレアル高に対して強い姿勢で臨んでおり、この点からも金利引き上げは行いにくい環境であると考えられます。

為替市場では金利据え置きは織り込み済みで、10月20日は、対ドルは1米ドル=1.68レアル、対円で1レアル=48.29円(出所:ロイター)となっており、大きな影響は見られないと考えられます。

10月20日のブラジル株式市場(ボベスパ指数):

政策金利の据え置きは株式市場の引け後に発表されましたが、米国株式市場の反発を受けて20日のボベスパ指数終値は70,000台を回復、終値は前日比0.77%高の70,404.68となりました。

ブラジル経済のファンダメンタルズは引き続き良好であり、中長期的な成長期待に変化はないと考えられますが、短期的には上述のIOF税の引き上げの影響も想定されることから、足元は慎重なスタンスで運用につとめてまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2003年2月～2010年10月20日)

